

リコー三愛グループ

三愛会 会誌

No.176 2026

特集 三愛会創立80周年

創立80周年を機に、創業からの歴史を振り返り、学び、そして、未来につながる力にしたいと思います。



創業者・市村清物語

市村の森 夢をかたちに

三愛オブリは自律・分散型インフラ社会の 推進をサポートします

WOTA WOSH 水循環型手洗いスタンド



水と向き合ってきた私たちの
独自技術により
人にも、地球にも
やさしい手洗いが、
どこでもできるようになりました。

日常での利用事例



商業モール・デパート
施設の感染症対策に
ホスピタリティを

学校・キッズエリア
子供が安心して
学べる・遊べる
衛生的な環境づくり

病院・福祉介護施設
病原菌から施設を
徹底的に守る

WOTA WOTA BOX ポータブル水再生システム



水道のない場所での水利用を実現する
ポータブル水再生システム。
排水を再生して
循環利用を可能にすることで、
災害時にも安心安全の水を使えます。

いつでも、どこでも、水道がない場所でシャワーを

空間の清潔さやプライバシーを重視するとともに、緊急時の持ち運びや保管が簡単な、テント方式を採用。避難所をはじめとする災害現場で、WOTA BOXを接続するだけで、誰でもすぐにお使いいただくことが可能です。



蓄電・発電

Powerwallは、家庭用蓄電池です。太陽光などで発電した電気を蓄電することで、電力会社への依存を減らし、エネルギー自律型の生活を目指すことができます。また、停電時でも1台でご家庭の全体をバックアップできる製品能力を備えていますので、より安心な暮らしを実現します。

Lifestyle

Powerwallを導入した
住宅におけるライフスタイル

〈ご紹介ショート動画〉



Powerwall
ライフスタイル



Powerwallが生み出す
安全性と利便性

テスラ Powerwall

<全負荷型>



家全体をバックアップ

他社製

<特定負荷型>



選択したエリアのみ

高性能アプリで簡単管理
遠隔操作・モニタリング、ソフトウェア自動更新



テスラ家庭用蓄電池
Tesla Powerwall

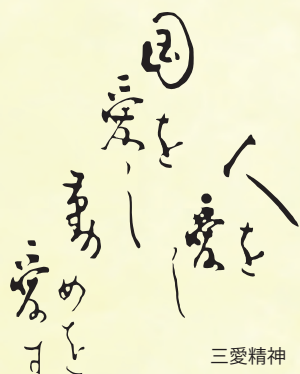
人々の生活と産業を支えるパートナーを目指して

さまざまなエネルギーサービスのシーンで、人々の生活と産業を支えています

Obbli
三愛オブリ

CONTENTS

- 02** ご挨拶
リコー三愛グループの未来へ
三愛会会長 山下良則
- 04** 創業者・市村清物語
市村の森 夢をかたちに
- 05** 特集
三愛会創立 80 周年
- 12** Group Information
リコー／エトリア／リコー IT ソリューションズ
リコークリエイティブサービス／三愛オブリ
リコーエレメックス／Welfare すずらん
- 16** 三愛会プラザ
創業者市村清顕彰活動①「愛の手募金活動」50年 ②市村幸恵寄贈の茶室「清恵庵」が国の登録有形文化財に ③エフエム佐賀「市村清の経済学」／創業者墓参／支部の活動報告／三愛会社友会／「愛の手募金」／創立 80 周年記念『特製卓上カレンダー』 他
- 21** 三愛会会員会社一覧



三愛精神

表紙の言葉

今年是三愛会の創立 80 周年とのもので、お祝いの雰囲気をも “春らしく庭に咲き誇るお花を家族みんなで喜んでいる” というイメージで描いてみました。

これからも三愛会ははじめ読者の皆さんの会社が長く続きますように…。

(作者 佐田みそ)



リコー三愛グループの未来へ

創設者市村清が貫いた信念を学びさらなる飛躍を遂げる時

三愛会会長 山下 良則

(リコー取締役会長)

「三愛精神」でつながる 異業種企業群

リコー三愛グループは、創設者である市村清が唱えた三愛精神に共鳴し、それに基づく経営を実践する企業の集まりです。市村は、1936年、理研感光紙（現リコー）を創業しました。戦後には、おしゃれの店三愛をはじめ、三愛石油（現三愛オブリ）、リコー時計（現リコーエレメックス）、日米飲料（現コカ・コーラボトラーズジャパン）、日本初のリース会社となった日本リース、佐賀県で唯一の民間放送会社である佐賀放送（現サガテレビ）など、業種の異なる企業を次々と創業しました。そして市村は1946年に非財閥系では他にあまり類を見ない異業種企業群における会社相互の連携を図ることが大切だと考え、企業親睦組織三愛会を設立しました。以来、創業の精神を共有し親睦の枠を超え社会貢献などグループ連携の核となってきた三愛会は2026年に80周年を迎

えます。各社が切磋琢磨し、それぞれの事業で大きな成功をおさめてきたことが私たちの誇りであり、今後もそうありつづけたいと考えています。

市村清、ひとりの人間として、 事業家として

ひとりの人間としての市村は、己が正しいと信じたことにはいかなる権力にも屈することがなく、同時に、とても情にもろい、心の温かな人であったそうです。修羅場を切り抜ける時には凄まじい気迫を見せ、一転、家族や友人、部下などに接する時にはとても人情がこまやかで人間味にあふれていたとあります。

事業家としては、明敏な頭脳と強固な実行力に支えられた創造的な事業家でした。多岐にわたる事業を興し、その多くが独創的な着想に基づくもので、それらを卓越した経営実務経験をもって成功に導いたと言えます。

三愛精神

このふたつの人物像の帰するところが、市村が戦後もまもなく標榜した創業の精神「人を愛し国を愛し勤めを愛す」（三愛精神）です。

「人を愛する」とは、自分さえよければという考えを捨てて他人を思いやることです。豊かで安心した生活はそうした気持ちを高めることにもつながります。そのためには「勤めを愛する」ことが必要です。仕事を楽しい、面白いと感じ、さらには歓びをもって働くと、いつそう仕事に打ち込めるようになります。その姿には周囲から尊敬や信頼が寄せられ、働く歓びも大きくなるでしょう。そこまで至るとやがて社会に対する愛となり、「国を愛する」気持ちにも発展すると市村は述べています。また、その著書『そのものを狙うな』においては、「どうすれば世の人がお互いに幸福になれるか、どの道をとればお互いに豊かな生活ができるか。事業の内部外部を問わず、私は事業経営によってこの大命題を追求したい。単なる利潤追求ではなく、その底に何かヒューマニズムの流れる事業家たることを信条としているのである。またその信条こそが、真に事業を繁栄させる根本だと断言してはばからないのである。」とあります。

三愛精神の根幹は、仕事を通して人のため社会のために役立ちたいという思いであると言えるのではないのでしょうか。

私と市村清。 そして三愛精神

「人を愛する経営」。それが今の私の経営ポリシーです。ここに至るまでのお話しをさせてください。

私は今まで3回、市村と三愛精神について学ぶ機会がありました。最初の機会はリコーに入社した時です。市村の生涯が綴られた『茨と虹と』を



読んでいたので、どんな人生を歩み、三愛精神とは何なのかを理解していたものの、今考えると知識として知っているというレベルだったと思います。

これが私にとって心打つものになったのは、その約30年後。米国から帰国し、リコーの総合経営企画室長を拝命した際に学び直した時です。それまでのキャリアで私自身も様々な経験をし、企業の力は頭数ではなく社員のモチベーションの総和であると考えていた私にとって、三愛精神は実感を持って共感するものになりました。

市村はこんなことも言っています。「事業というものは、儲けようとするればおのずと限界がある。けれども、道に即してやれば、自然に儲かるものであって、その利益は無量大だ。」と。これが「儲ける経営より、儲かる経営」という信条です。こうした市村の考えは本社で経営に関わる事になった私に何を大切にしなければならぬのかを教えてくださいました。

そして、最後の学ぶ機会になったのが、2017年にリコーの社長への就任が決まった時です。米国では生産会社の社長を務めた経験はありませんでしたが、リコー本体とはあらゆるものの規模が違います。正直どうしようかと迷った私は、創業者に学んで第二の創業をするつもりで三愛精神に振り返り、実践をするという原点に戻ろうと考えました。そして市村と同世代の経営者を中心に、直接親交のあった方や親族など、生前の市村を知っている方とお会いし、「市村清はどんな人でしたか?」と尋ねまわりました。そうやって改め

て学び直してみると、人を事業の中心に据えるというこの精神は時代を先取りするものだったと実感するとともに、リコーが目指すべきことはここに集約されていると確信しました。そして社長就任の記者会見で、どんな会社にしたいか?と質問を受け、自信を持って口から出た言葉は「社員がイキイキと働ける会社になりたい。」でした。

2023年に経営の舵取りを後任の大山晃に任せて会長になった今、経営ポリシーを聞かれることが増えました。冒頭でお話ししたように、私はいつも「人を愛する経営です。」とはっきりお答えします。それは、これまで人に生かされてきた人生だから、人を生かす経営をしたいという思いと、私のキャリアの節々で立ち返り、支えてくれた三愛精神の二つが原点になっています。

リコー三愛グループの皆さん一人ひとりも、それぞれの「自分と三愛精神」があるのではないのでしょうか。ぜひ機会を作って市村の生涯や三愛精神に立ち戻ってみてください。きっと以前とは違う学びがあると思います。そしてそれを力に、90年、100年と続く三愛会へと飛躍を遂げる時であると考えています

最後に、昭和21年12月、『三愛』（現在の『三愛会会誌』の前身）の創刊にあたり、その巻頭に記された最後の一文を紹介し、私の序とする次第です。

「私の愛してやまない社員諸君、今後とも三愛精神に徹して、日本の発展に全力を傾けようではないか。」

市村の森

夢をかたちにした

「市村の森」。

かつて、三善信一第3代三愛会会長は市村清が創設した企業集団「リコー三愛グループ」をこのように表現しました。

市村が興した会社を1本の木に例えれば、グループは「森」であろう。市村はこの森にいろいろな種類の木を植え、それぞれが四季折々の輝きを見せながら育っていくことを夢見ていたに違いない、というのです。

それではなぜ市村は一種類の木ではなく、異なる種類の木々を植え、育てようとしたのでしょうか。

1964年、グループ機関誌『San・ai』（現『三愛会会誌』）の企画で行われた松下幸之助氏（松下電器産業（株）会長）と市村の対談の冒頭に、次のような場面がありました。

松下 やあ、しばらく、お忙しいでしょう。

市村 あなたと違って、あれやこれや雑多をやっているものですか。（笑）

松下 いや、東京は大阪と違って仕事が多いですもの、大変やと思いますわ。接触面が多いですから。

市村 私の場合は全く多角経営で、雑多で、種類の違ったことをやっていますでしょう。どうもごちゃごちゃで恥ずかしいかぎりです。

松下 いやどうして、よくやられていますわ。

同席していた三善（当時リコー専務）は二人のやりとりを聞きながら、思いを巡らせました。

「考えてみると、松下さんの会社づくりはナシヨナルという1本の木を植えて、今はいろいろな産業に進出しているけれど、それらもやはり松下電器を中心とした会社だ。」

ところが市村会長は、桜の木も、梅の木も、杉の木もというように、たくさん種類の木を植えて市村の森にした。会長

にはお子さんがいらっしやらなかつたけど子供に例えれば、リコーが長男の木であり、三愛が長女の木であり、三愛石油が次男の木といった感じだな。

市村の森にはたくさんの人が住んでいる。リコー三愛グループの社員たちだ。会長は森の住民たちが助け合い、仲良くしてほしいと願い、結束と交流の場として「三愛会」を作ったのだらう。

1946年、「三愛会」発足時には会員会社6社という小さな林でしたが、次々と木が植えられ、育てられて、市村がこの世を去った68年には、21本の森になっていました。

やがて会社が子を生み、孫を作るという形で森が成長し、1978年時点で、会員会社数101社、社員約3万人という大規模になったため、三愛会会長に就任した三善は、それまで並列的に会社が並んでいたものを、縦列的に系統立ててまとも直そうと考えました。そうしてまとも直したのが、リコーグループ、三愛石油グループをはじめとした7つのグループ分けです。

また三愛会は、グループ間ではなく、地域の会員会社同士のつながりを維持・強化するために、全国8地区（現北海道、東北、東京、神奈川・東静岡、中部、近畿、中国、九州）に支部を発足させました。この支部を中心に、異業種間の交流も途切れることなく続けられてきたのです。

再び当時の三善の思いに戻りましょう。

「松の木と市村の森の例をあげたけど、大きな松が営々と栄えている姿は、本当にうらやましいほど立派だと思ふ。しかしそこには松の木しかない。こっちは桜の木も、梅の木も、藤の木もある。春は花見、秋は紅葉狩りだつて楽しめる。この一本一本が大きく成長するなら、松だけよりもっと期待できる集団になるのではなからうか。」

* * *

三愛会創立から80年。時代の変遷とともに三愛会もその姿形を変えてきましたが、創立時の市村の思いは連綿と受け継がれてきました。現在、42社・団、社員約38000人の市村の森が構成され、未来に向かって歩みが続けています。



リコー馬込本社の社長室にて。中央が市村、右端がリコー三善専務（当時）



対談する松下幸之助氏（右）と市村（1964）

特集 三愛会創立80周年

三愛会は本年4月4日に創立80周年を迎えます。
今号では1946年の創立から今日に至るまでの歴史を振り返り、トピックスともにお伝えします。

1 三愛会の創立 グループ機関誌『三愛』創刊と「三愛精神」発表



初代三愛会会長
市村 清
リコー三愛グループ
創業社長



『三愛』第1号

創業者・市村清は1944年に創立した「自蹊会」を、終戦翌年の46年4月4日、「三愛会」と改称（三愛会の創立とする）、リコー三愛グループ会社相互の連携と関連事業の助長に向けて、新たな第一歩を踏み出しました。同年12月、機関誌『三愛』を創刊、その誌上で「三愛精神」（人を愛し国を愛し勤めを愛す）が発表されました。

市村亡き後も創業者の理念が受け継がれ、三愛会は80年の長きにわたってグループのまとめ役としての任を担ってきました。また、『三愛』は創立40年を機に『三愛会会誌』と改称され、グループの情報共有ツールとして発行を続けています。

2 リコー三愛グループ合同運動会

1954年10月、リコー三愛グループ合同運動会を大田区馬込第三小学校校庭で開催。多彩な競技が次々と繰り広げられ、歓声は終日、会場前の理研光学大森工場にもこだましました。62年10月の合同運動会は理研光学の砧総合グラウンド完成記念として開催（8社、約4400人が参加）。市村も参加した仮装行列にはひととき大きな声援が上がりました。



仮装行列で奮闘する市村（砧総合グラウンド 1962.10.10）

68年11月開催の合同運動会（千駄ヶ谷東京体育館、東京地区15社、約7000人が参加）には病床にあつた市村も夫人と共に観戦に訪れ、笑顔で挨拶しましたが、これが社員たちに見せた市村の最後の姿となりました。
なお、大阪地区、九州地区でも合同運動会が開催されました。

3 市村遺児育英会

病気で亡くなった社員の葬儀に参列した市村は、幼い遺児の姿に涙して、遺児たちの学費を援助したいと申し出ました。これをきっかけに、1961年、働き手を失った遺族家庭の救済という目的で、市村の私費による「市村遺児育英会」（96年、「市村育英会」と改称）が設立されました。

1964年から三愛会の運営に移行。また、グループ社員に募金を呼び掛ける愛の手募金活動（第1回は1975年）にも派生して、募金活動は50年目を迎えました。



第1回市村遺児育英会贈呈式（1960.5.22）

三愛会80年の変遷

黒字…三愛会関連
青字…リコー三愛グループ会社関連

西暦	和暦	主な出来事
1946	昭和21	4月4日、自蹊会を「三愛会」に改称（三愛会の創立）。初代会長・市村清 1
1947	22	12月、市村、グループ機関誌『三愛』創刊、「三愛精神」発表 1
1948	23	4社（理研光学工業、東洋特専、旭無線、三愛）合同運動会（豊島園） 市村、明治神宮からの再建要請で明治記念館を開館
1949	24	三愛会、事務所移転（中央区銀座） 『三愛』休刊（54年復刊）
1950	25	理研光学工業、「リコーフレックス」を発売
1952	27	三愛石油(株)設立。石油製品の販売を開始
1954	29	『三愛』を「San'ai」に改称 リコー三愛グループ合同運動会を開催（大田区馬込第三小学校） 2
1955	30	理研光学工業、ジァゾ複写機の1号機「リコー1101」を発売 三愛石油、ハイドラント式給油施設による航空機給油業務を開始
1958	33	理研光学工業健康保険組合設立（75年、リコー三愛グループ健康保険組合に改称） 市村、マイアミ市に蘭の木300本寄贈（61年、イチムラ・ガーデン寄贈） 市村、母校・佐賀県北茂安小学校に講堂を寄贈
1960	35	（株）西銀座デパート開店 市村遺児育英会発足 3

4 リコー三愛グループ合同入社式

1965年4月7日、第1回合同入社式がリコー大森事業所本社において挙行され、グループの新入社員1583人のうち、主に東京地区の293人が出席。市村は「大きく自分を伸ばせ、そこに生きがいがある」と祝辞を述べました。

83年からは、明治神宮会館において合同入社式・新入社員歓迎会として開催されるようになり、95年まで続けられました。



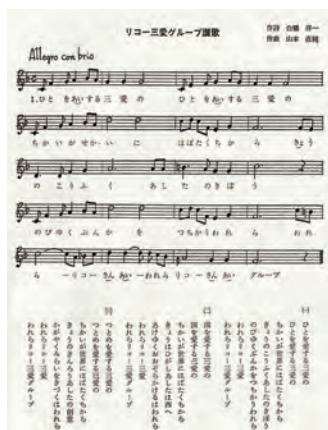
新入社員代表の宣誓の朗読 (1965.4.7)

6 「三愛会会歌」決定

三愛会の会歌の制作にあたり、グループ社員に歌詞を募集したところ70余編の応募作品が寄せられ、その中から白幡洋一氏（リコー）が第1席に選ばれました。

1967年12月28日、入選者表彰式が市村出席のもと、リコー三愛ビル9階会議室において行われ、入選の皆さんに賞状が授与されました。

なお、作曲は山本直純氏（20世紀を代表する作曲家・指揮者）で、直ちにテープに録音され、グループ各社に配布されました。



5 リコー三愛グループ物故者合同慰霊法要

戦死された社員を含め、物故社員の霊前に感謝の意を捧げたいという市村の発意から、1944年11月、第1回物故者合同慰霊法要が東京・築地本願寺で営われました。

戦後しばらく途絶えました。戦後3月、東京・増上寺において第2回物故者合同法要を実施、終了後には遺族の皆さんの東京観光も行われました。79年12月、市村の13回忌法要と併せて賢崇寺（市村の菩提寺）で実施。また、83年以降は、3年ごとに増上寺で営まれ、2013年まで続けられました。



ご遺族を見送る市村夫妻 (1967.3.18)

7 創業者・市村清逝去



1968年12月16日午前7時13分、市村が急性肝萎縮症のため逝去。東京体育館で開催された合同運動会に夫婦で姿を見せてから、わずか一月後のことでした。

12月20日、三愛会各社の合同主催による葬儀・告別式が築地本願寺で営まれ、祭壇の遺影は1万数千本のバラや白菊の花で飾られました。葬儀委員長は前経団連会長石坂泰三氏、ご参列者は三笠宮宣仁親王殿下、佐藤栄作首相、近衛忠輝・甯子ご夫妻をはじめ各界の名士、知人など多数で、会葬者は7000人を超えました。

西暦	和暦	主な出来事
1960	昭35	・日米飲料(株)設立(63年、日米コカ・コーラボトリング(株)、73年、北九州コカ・コーラボトリング(株)に社名変更。その後、コカ・コーラウエストジャパン(株)への移行等の変遷を経て、2017年、コカ・コーラボトラーズジャパンに統合、リコー三愛グループ退会)
1961	36	・市村、藍綬褒章受章
1962	37	・リコー三愛グループ合同運動会を開催(理研光学工業 砧総合グラウンド) 2
1963	38	・市村、高野精密工業(株)の再建に着手、社名をリコー時計(株)に変更 ・(株)ホテル三愛設立(64年、三愛観光(株)に社名変更) ・三愛ドリウムセンター落成 ・市村、銀座4丁目角に交番を寄贈 ・第1回幹部新年会開催(理研光学工業内) ・市村、佐賀県に「佐賀県体育館」を寄贈(92年、「市村記念体育館」に改称) ・理研光学工業、(株)リコーに社名変更 ・市村、紺綬褒章受章 ・(株)日本リース・インターナショナル設立(67年、(株)日本リースに社名変更、99年、ゼネラル・エレクトロニクス傘下に移行)
1964	39	・市村遺児育英会規定制定 ・三愛運輸(株)設立(現 S B S ネット(株))
1965	40	・第1回リコー三愛グループ合同入社式開催(リコー本社内) 4
1966	41	・『San'ai』休刊(68年、復刊)
1967	42	・九州三愛観光(株)設立(現瀬の本高原リゾート(株)) ・第2回物故者合同慰霊法要 5 ・リコー三愛ビル開館(中央区銀座) ・三愛会、事務所をリコー三愛ビル内に移転 ・東北リコー(株)設立(現エトリア(株)) ・三愛不動産(株)設立(現リコークリエイティブサービス(株))

8

『San-ai』市村清追悼号

リコー三愛グループ21社の総帥であり、創業者でもあった市村の逝去を悼み、1969年4月4日、会誌『San-ai』（『三愛』を改称）59号全編（全116ページ）を追悼号として発行しました。

表紙は市村が好きだったカトレアの花（画・奥村土牛氏、石坂泰三、大谷壮一、池田弥三郎、五島昇、石原慎太郎、大鵬幸喜、中曽根康弘の各氏をはじめ、政財界、文壇、芸能界などの市村と交流があった多くの方々の追悼文、葬儀の記録、年表等々が掲載され、創業者への思いが詰まった一冊となりました。



『San-ai』59号

9

リコー三愛グループ、万博に出展

1970年3月、リコー三愛グループは大阪万国博覧会に「理光よりよき人類の眼」をテーマに「リコー館」を出展。

テーマは、市村の「絶対に人まねでない創造であれ」との号令で練られ、展示内容はリコー三愛グループ各社のアイデアと技術を集結したものでした。



光が変化する大気球「天の眼」、外壁がすべて表示装置である円筒形建物「地の眼」、建物内部の光と音の空間「心の眼」など、ユニークな光の技術を取り入れたさまざまな展示物は、多くの来場者に驚きと感動を与えました。なお、大阪万博への出展は、67年4月に市村自ら申し込んだもので、出展申し込み第1号でした。

10

社友会発足

1975年6月、グループ企業に永年勤務し、定年退職した人々を対象に、旧友との親睦や出身会社社員との交わり、会員相互の結束を図ることを目的として「社友会」が発足しました。

現在、趣味を同じくする人たちが集うサークルも10あり、多くのOB、OGたちがイベントやサークル活動を楽しんでいます。



ビアパーティーの様相（2025）



発足時の寄せ書き

11

三愛新書『人間と文化』発行

1975年4月、主に幹部社員を対象とした教養講座「三愛会カルチャーセンター」を開設、年数回、さまざまな分野から著名な講師を招いて講演会を開催しました。さらに、講演内容をまとめた三愛新書の教養講演集『人間と文化』第1集が発行され、シリーズは81集（2015年発行）まで続きました。なお、三愛新書は、『茨と虹とー市村清の生涯』『そのものを狙うな』をはじめとする市村関連著書の復刻版なども発行してきました。



を狙うな』をはじめとする市村関連著書の復刻版なども発行してきました。

1968	43	<ul style="list-style-type: none"> 三愛会会歌決定 6 リコー三愛グループ合同運動会を開催（東京体育館） 2 新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可（現市村清新技術財団） 12月16日、市村清逝去 7 12月20日、市村の葬儀・告別式を挙げる（築地本願寺） 7 館林三喜男が第2代三愛会会長に就任
1969	44	<ul style="list-style-type: none"> 「市村清を偲ぶ会」開催（ホテルオークラ） 『San-ai』59号を「市村清追悼号」として発行 8 新技術開発財団・第1回市村賞贈呈式（ホテルオークラ） サガテレビ開局 市村清の一周忌に『San-ai』62号を『市村実践哲学』として発行 市村清銅像除幕式を挙げる（リコー大森事業所玄関前広場） 『茨と虹とー市村清の生涯』（実業之日本社）刊行
1970	45	<ul style="list-style-type: none"> リコー三愛グループ、大阪万国博覧会にリコー館を出展 9 市村清3回忌法要を挙げる（ホテルオークラ） リコー光学㈱設立（現㈱オプトル） 市村清7回忌法要（賢崇寺）
1973	48	<ul style="list-style-type: none"> 第1回三愛会カルチャーセンター開催（三愛会とリコー厚生年金基金共催） 社友会発足（90年、自主運営組織化） 10 たんばげ会（物故社員の未亡人による会）発足 愛の手委員会設置。10月、愛の手募金活動開始。12月、贈呈開始
1975	50	<ul style="list-style-type: none"> 三愛新書『人間と文化』シリーズ第1集創刊（2015年の第81巻まで発行） 11 リコー、事務機業界初のデミング賞を受賞

三愛会創立30周年 『San-ai』30周年記念号

1976年、三愛会創立30周年と会誌創刊30周年を記念して、『San-ai』80号を記念号として発行しました。



館林三喜男第2代三愛会会長は冒頭「三愛精神私考」と題して、三愛精神の実践と社員の連帯意識について述べました。
特集は三愛精神を考察する「三つの愛のハーモニー」、そして今年50年を迎える「愛の手運動」発足の記事も掲載されました。



『San-ai』80号

各地区に三愛会支部発足

1978年10月、三愛会加入会社が101社となり、これを機に、全国に散らばるリコー三愛グループ会員会社相互の友好と協力を高めるため、その窓口として8地区に三愛会支部が設置されました。

支部の運営は選出された支部長に一任され、現在、北海道・東北、東京、神奈川・東静岡、中部、近畿、中国、九州の8地区が活動しています。



三愛会創立40周年 『San-ai』を『三愛会会誌』に改称

1986年、三愛会は創立40周年、会誌創刊40周年を迎えました。これを機に『San-ai』を『三愛会会誌』に改称し、93号、94号を記念号として発行しました。

93号「特集・創業の精神とともに40年」は創業から40年の歴史が写真と年表で綴られ、94号「創刊・愛とともに40年」では会誌1号から93号までの表紙をカラーで紹介するとともに、各号の内容一覧を掲載しました。



『三愛会会誌』93号

ヤング三愛会がスタート

グループ会社社員の50%以上が30歳以下という状況の中で、若手社員の相互信頼を深め、仲間意識を高めて、グループの発展に寄与してほしいという思いから、1989年10月、「ヤング三愛会」が発足しました。

約1年の準備期間を経て、最初に開催された「東京地区サマーパーティー」（90年7月）には、予想を超える500人余りが集い、期待の大きさを確認しました。

その後、ビアパーティー、異文化交流会、研修会、スキーツアー、テニス大会などが開催され、若い社員たちの絆を深める場となりました。



ヤング三愛会ビアパーティー（2012）

西暦 昭和
1976 昭51

主な出来事
・三愛会創立30周年 **12**
・『San-ai』、「30周年記念号」を発行 **12**
・10月20日、館林三喜男第2代会長逝去。同日、三善信一が第3代三愛会会長に就任 **12**



第3代会長 信一
職歴 リコー会長

・10月29日、館林会長のリコー三愛グループ合同追悼式を挙行

・リコークレジット(株)設立

・三愛会常務理事会を社長会に改組し、最高決議機関とする(リコー、三愛、三愛石油、日本リース、北九州コカ・コーラボトリング、リコー時計、三愛不動産社長で構成)
・各地区に三愛会支部発足(8支部) **13**

1979 54

・三愛新書『茨と虹と・市村清の生涯』発刊
・市村清13回忌・リコー三愛グループ合同慰霊祭を挙行(賢崇寺) **5**

1984 59

・リコークレジット、リコーリース(株)に社名変更

1986 61

・リコー、創立50周年
・リコー時計、リコーエレメックス(株)に社名変更

1988 63

・三愛会創立40周年 **14**
・『San-ai』を『三愛会会誌』に改称。「創立40周年記念号」を発行 **14**
・社長会を常任理事会に改組
・1月8日、市村幸恵夫人(三愛社長・三愛会顧問)逝去
・2月12日、市村幸恵合同葬儀・告別式を挙行(三愛会・三愛共催 青山葬儀場)
・リコーエレメックス、創立50周年
・ヤング三愛会がスタート **15**

1989 平1

・三愛会 神奈川支部発足(91年、神奈川・東静岡支部に名称変更)

1990 2

・市村清23回忌法要と偲ぶ会(ホテルオークラ)

16 全国ボウリング大会

北海道から沖縄まで、全国に広がるグループ会社の社員たち約55000人が一堂に会するのは難しいので、集まることなくみんなで楽しめるイベントはできないだろうか、そんな思いから企画されたのが「全国ボウリング大会」です。

これはいわば個人対抗戦で、設定期間の3か月の間にプレーして、スコア表を事務局に送付してもらい、優勝、準優勝やブービー賞など各賞を選ぶというものです。1993年の第1回大会の参加者は2044人、優勝者は東京での表彰式の後、副賞の東京アイズニールランド招待を楽しみました。また、中部支部など、時期を合わせて地区ボウリング大会を開催する支部もありました。

なお、最後の大会となった2010年度の大会成績発表の直後に、東日本大震災が発生。入賞者の多くが賞品を被災地支援に寄付されたと記録に残っています。



中部地区ボウリング大会の様子 (2010)

17 市村清生誕100年記念式典

『三愛会会誌』、生誕100年記念号

創業者・市村清の生誕100年にあたる2000年4月4日、リコー大森事業所本館ホールにおいて記念式典とハーティーが挙行され、来賓、OB・OG、三愛会役員、会員会社社長・社員代表など400人を超える関係者が集い、生誕100年を祝いました。



市村清生誕100年記念式典の様相 (2000.4.4)



『三愛会会誌』125号

また、『三愛会会誌』125号、126号を記念号として発行。125号には浜田広三愛会会長の挨拶や市村と親交があった方々の寄稿、元社員たちによる座談会、「まんが市村清物語」などを掲載、126号には記念式典の様相や記念行事実施報告などが掲載されました。

18 三愛会カルチャーセンター300回記念講演会

「人間と文化」をテーマに1975年に開設された三愛会カルチャーセンターが、丸27年で300回に到達。開始当初は幹部社員の教養向上が目的でしたが、その後、グループの文化事業の一環として外部にも開放して実施されてきました。

2002年3月、小山宙丸先生(前早稲田大学総長・白鷗大学総長)を迎えて300回記念講演会(演題「哲学への手引き」)を開催。難しそうなテーマでしたが、「当たり前を疑問に思うのが哲学です」と語る先生のお話に、100人を超える聴講者が熱心に聞き入っていました。



第300回カルチャーセンターの様相

1991	3	・新技術開発財団、熱海に植物研究園開設
1992	4	・市村の母校・北茂安小学校に市村清展示コーナー誕生
1993	5	・エフエム佐賀開局
1994	6	・第1回全国ボウリング大会を開催 16
1995	7	・市村清27回忌法要(賢崇寺)
1996	8	・リコー三愛グループ愛の手募金規定制定
1999	11	・三愛会、創立50周年
2000	12	・濱田広が第4代三愛会会長就任
2001	13	・市村遺児育英会を市村育英会に改称
2002	14	・三愛石油、羽田空港における新航空機給油施設供用開始
2003	15	・市村遺児育英会を市村育英会に改称
2004	16	・三愛石油、羽田空港における新航空機給油施設供用開始



第4代会長
浜田 広
職歴
リコー社長、会長

- ・市村清生誕100年記念式典を挙行(リコー大森事業所本館ホール) **17**
- ・『三愛会会誌』125号「市村清生誕100年記念号」発行 **17**
- ・市村清生家跡に市村記念公園が完成
- ・『三愛会会誌』126号「市村清生誕100年記念行事号」発行 **17**
- ・市村清33回忌法要と偲ぶ会(賢崇寺)
- ・市村自然塾 関東が開塾
- ・三愛会カルチャーセンター300回記念講演会を開催 **18**
- ・三愛石油、創立50周年
- ・三愛石油、コーポレート・ブランド「Obbi」を導入
- ・市村自然塾九州が開塾
- ・三愛ドリームセンターが「日本におけるモダンムーブメントの建物100選」に選出
- ・3月19日、三善信一第3代会長逝去
- ・4月19日、三善前会長のお別れの会を挙行(帝国ホテル)

三愛会ホームページ開設

2008年5月に三愛会ホームページを開設し、三愛精神や市村清に関する情報を掲載しました。

さらに、三愛新書の紹介やリコー三愛グループの活動を随時公開し、グループ社員の皆さまに情報共有のツールとしてご利用いただいています。



『リコー三愛グループのご紹介』発行

2008年4月、新しい情報発信ツールとして『リコー三愛グループのご紹介』を発行。主に、グループ各社の新入社員の皆さんやリクルート活動に携わる方たちの手引きとなることを目的として、創業者・市村清と三愛精神について、三愛会会員会社・団体の紹介などを掲載しました。翌09年、『リコー三愛グループ案内』と改称、毎年春に内容を更新しながら発行を続けています。



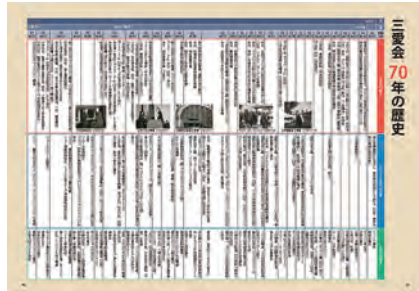
三愛会創立70周年

『三愛会会誌』70周年記念号

2016年、三愛会創立70周年と会誌創刊70周年を記念して、157号、158号を記念号として発行。

157号では、三愛会の70年の歴史やトピックスを紹介、また記念行事の一環として「市村清とわたし」、「わたしにとっての三愛精神」をテーマとした作文をグループ社員に募集しました。

158号では、会誌1号から158号までの70年間に掲載された記事・特集・対談などの年譜と、特に歴史の節目となった号を紹介。さらに、前号の作文募集に寄せられた多数の作品の中から選ばれた入選作品2編が掲載されました。



『三愛会会誌』157号

三愛新書『市村清実践哲学』発行

1969年12月の市村一周忌に際し発行した『市村清実践哲学』（『三愛会会誌』62号）を

2016年、三愛会創立70周年を機に三愛新書新装版として発行しました。

また、市村一周忌の日に出版された『茨と虹と市村清の生涯』（尾崎芳雄著 実業之日本社刊）も、

1979年に三愛新書新装版を制作し、長年にわたり創業者の手引書としてグループ社員の皆さんに読まれてきました。

2000年には、市村清生誕100年記念として市村の著書など10冊をまとめた特別装丁版も発行しました。



『茨と虹と』初版



『茨と虹と』改訂版



西暦	和暦	主な出来事
2005	平17	・常任理事会の変更（リコーリースがリコー三愛サービスと交代） ・首都圏の販売会社5社を統合し、リコー販売㈱を設立 ・三愛、リコーの完全子会社化
2007	19	・桜井正光が第5代三愛会会長就任
2008	20	・三愛会ホームページ開設 ・『リコー三愛グループのご紹介』発行（現『リコー三愛グループ案内』） ・三愛会 東京支部に関東支部を統合 ・市村清没後40年記念式典を挙げる（賢崇寺） ・三愛新書『市村清講演集』発行
2010	22	・国内の販売会社7社を統合し、リコージャパン㈱を設立 ・三愛石油、創立60周年
2012	24	・近藤史朗が第6代三愛会会長就任
2013	25	
2016	28	・リコー、創立80周年 ・三愛会、創立70周年 ・リコーリース、設立40周年 ・三愛新書『市村清実践哲学』発行
2017	29	・市村清50回忌法要（賢崇寺）
2018	30	・『三愛会会誌』161号「市村清没後50年特別号」発行
2019	31	・『三愛会会誌』162号「市村清没後50年特別号」発行



第6代会長 近藤 史朗
職歴 リコー社長、会長



第5代会長 桜井 正光
職歴 リコー社長、会長

三愛会・支部交流会

市村清没後55年をしのび、2024年3月1日、「三愛会・支部交流会」を開催。全国8支部の皆さんが初めて一堂に会しました。

第1部では、東京都内に点在する市村ゆかりの地を巡り、第2部では明治記念館で三愛会山下会長や常任理事、参加者による懇親会が行われました。



市村清新技術財団の中庭にて

② 「三愛会会誌」、生誕125年記念号

2025年発行の『三愛会会誌』174号、175号を市村生誕125年記念号として編集。174号では市村の生涯を年譜「市村清ヒストリー」でたどり、175号では6月に開催した記念イベント「市村清ゆかりの地を巡る佐賀ツアー」の様子を紹介しました。



市村清生誕125年

① 三愛会ホームページ特設サイト開設 記念ロゴタイプ制作



2025年1月、市村清生誕125年を記念して三愛会ホームページに記念特設サイトを開設しました。



市村の68年の生涯を振り返って、関連事業やレガシーを紹介。また、日替わりで掲載していた市村の名言・至言「今日のひとこと」市村清の訓え」を全編公開しました。さらに、「市村生誕125年記念ロゴタイプ」を制作し、『三愛会会誌』やホームページ上などで活用されました。

③ 市村清ゆかりの地を巡る佐賀ツアー開催

2025年6月4日〜5日、記念行事の一環として、過去2回開催した佐賀ツアーの規模を拡大して「市村清ゆかりの地を巡る佐賀ツアー」を企画。三愛会8支部から67人の参加を得、佐賀市内とみやき町のゆかりの地を巡りました。

また、1日目の夜には支部交流を目的とした懇親会を開催、三愛会の山下会長はじめ常任理事や来賓もお招きして親睦を深めました。



全員揃って記念撮影（ホテルニューオークラ佐賀にて）

三愛会創立当時の目的「創業者・市村清の経営理念である『三愛精神』を基盤とするリコー三愛グループ各社をもって構成し、創業者の遺志を尊重して会員会社相互の発展と団結、ならびにグループのイメージアップを図ること」は今後も変わらず、三愛精神を次代につなげる活動と市村清顕彰活動に取り組んでまいります。

2026	2025	2024	2023	2022	2020	令1
8	7	6	5	4	2	1
<ul style="list-style-type: none"> ・「三愛会会誌」176号、特集「三愛会創立80周年」 ・リコー、創立90周年 ・4月4日、三愛会、創立80周年 ・西銀座デパート、設立70周年 ・リコーリース、設立50周年 	<ul style="list-style-type: none"> ・「三愛会会誌」174号、特集「市村清生誕125年」24 ・4月4日、市村清生誕125年（三愛会ホームページに特設サイト開設）24 ・市村清生誕125年記念「市村清ゆかりの地を巡る佐賀ツアー」開催24 ・「三愛会会誌」175号、特集「市村清生誕125年」第2弾24 ・「三愛会会誌」176号、特集「三愛会創立80周年」 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月24日、桜井正光第5代会長逝去 ・三愛会・支部交流会開催23 ・桜井正光元会長の「お別れの会」を開催（帝國ホテル） ・「三愛会会誌」173号、特集「『三愛会会誌』1954年の復刊から70年の歩み」 	<ul style="list-style-type: none"> ・リコー、「三愛ドリームセンター」の建て替えを発表（2027年完成予定） ・「三愛会会誌」171号、特集「三愛ドリームセンター60年の軌跡」 ・山下良則が第7代三愛会会長就任 	<ul style="list-style-type: none"> ・FM佐賀、リコー三愛グループ三愛会 Presents「市村清と13人の賢人たち」を放送 ・三愛石油、創立70周年、三愛オプリー(株)に社名変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・市村清ゆかりの地を巡る「佐賀ツアー」開催（第1回） ・リコー、「電子リコーBS-1」、複写機遺産として認定 ・佐星醤油(株)が三愛会に加入 	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)サガテレビ、(株)西銀座デパート、(株)エフエム佐賀の3社が三愛会に加入



第7代会長 山下良則
職歴 リコー社長、会長

リコー

ペロブスカイト太陽電池が NEDO のグリーンイノベーション基金に採択

2025年9月、リコーが大和ハウス工業株式会社とNTTアノードエナジー株式会社と共同で取り組んでいる、インクジェット印刷ペロブスカイト太陽電池の社会実装を目指すプロジェクトが、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のグリーンイノベーション基金の「次世代型太陽電池実証事業」に採択されました。グリーンイノベーション基金は、日本が掲げる「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて、複数の分野での技術開発を後押しする支援制度です。

ペロブスカイト太陽電池は、薄く、軽く、曲げられる次世代型太陽電池です。壁面や耐荷重性の低い屋根など、これまで太陽電池の設置が難しかった場所にも設置できるため、再生可能エネルギーの普及を大きく前進させる技術として期待されています。リコーは、この未来の太陽電池をインクジェット技術で生産する研究を進め、高生産性と低コスト化の実現に挑戦しています。



インクジェット印刷によるペロブスカイト太陽電池

エトリア

ETRIA × OKI がいよいよ始動！

10月1日、ETRIAに沖電気工業株式会社（OKI）が参画し、ETRIAは新たなスタートを迎えました。

この節目を記念したイベントを横浜のETRIA本社からライブで配信。ETRIA中田克典社長とOKI森孝廣社長が登壇しました。中田社長は、リコーと東芝テックのビジネス融合の歩みを振り返り、OKIのモノづくりに向き合う真摯な社風への共感、情熱あるOKIからの移籍メンバーへの大きな期待を語りました。「個性ある皆さん一人ひとりの力がETRIAの原動力」と呼び掛ける言葉には、社員への期待と未来への希望が込められました。森社長からは、協業による技術や人材の融合が新たな価値を生み出すことへの期待が語られました。OKI社員の真面目さと技術力が環境の変化で覚醒する可能性に触れ、「業界No.1となるための道を共に歩んでいきたい」と力強く締めくくりました。両社長の握手には、協業の象徴として未来への決意が込められていました。



OKI 森孝廣社長（左）と ETRIA 中田克典社長の力強い握手

リコー

将棋部が内閣総理大臣杯 4 連覇！

11月3日に「内閣総理大臣杯 第128回 職域団体対抗将棋大会」が開催され、「リコー（1）」チームが最上位クラスのS級で優勝。内閣総理大臣杯を手にし、見事4連覇を果たしました。

毎年春と秋に行われる本大会は、同一職場から5人でチームを編成し、SからFまでの7クラスに分かれて戦う団体戦で、将棋の企業日本一を決定する大会です。今大会には424チームが参加、12チームからなるS級にはリコーから2チームが参加。「リコー（1）」は、予選リーグで強豪「トリプルアイズ」に勝利して勢いに乗ると、3連勝で予選リーグを突破。決勝トーナメントの準決勝では、現役アマチュア名人を擁する優勝候補筆頭の「エコ・プラン」に勝利。前回大会に続き、ライバル「富士通（1）」との決勝戦でも激戦を制して4連覇を達成しました。

今回の優勝により、2月開催の日本選手権（社会人、学生の日本一チームによる優勝決定戦）の出場権を獲得しました。



優勝した「リコー（1）」チームの皆さん

リコー IT ソリューションズ

「ET ロボコン 2025 チャンピオンシップ大会」で総合優勝！

11月20日にパシフィコ横浜で開催された「ET ロボコン 2025 チャンピオンシップ大会」(以下、ET ロボコン)に、リコー IT ソリューションズ札幌事業所から「札幌ギアワークス」の5名が参戦し、トップカテゴリの「アドバンストクラス」で総合優勝を飾りました。

ET ロボコンは、組み込みソフトウェアの設計技術を競う大会で、24年目を迎える歴史ある大会です。エントリー、プライマリー、アドバンストの3つのクラスに合計193チームが参加し、チャンピオンシップ大会の「アドバンストクラス」には地区予選を勝ち抜いた6チームが進出。ソフトウェアの内容や課題解決方法を評価する設計図審査と競技が行われ、黒線で書かれたコースを自律走行し、リザルトポイント(走行ポイント+ボーナスポイント)を獲得する競技では、LコースとRコースを各1回ずつ走行。「札幌ギアワークス」の優れた設計図と走行結果の両立が高く評価されました。



「札幌ギアワークス」の皆さん(左から大田さん、記伊さん、今村さん、佐藤さん、森さん)

リコー

「日経 SDGs 経営大賞」で2年連続「プライムシート企業」に選出

日本経済新聞社が実施する2025年度「日経サステナブル総合調査 SDGs 経営編」において、リコーは7年連続で最上位評価となる「星5(偏差値70以上)」を獲得しました。

さらに、本調査結果をもとにSDGsに貢献する先進企業を表彰する「日経SDGs 経営大賞」において、継続して高い評価を得ている企業を対象とする「プライムシート企業」に2年連続で選出されました。この「プライムシート企業」は2024年に新設された、いわば“殿堂入り”に位置付けられる認定枠で、2年連続での選出はリコーを含めて2社のみです。

11月27日に都内で開催された表彰式に出席したリコー大山晃社長は、受賞スピーチでリコーグループにおけるESGへの取り組みを紹介するとともに、今後に向けた意気込みを語りました。



リコー 大山晃社長の受賞スピーチ

リコー

「市村自然塾 関東」ではボランティア参加者も募集しています

市村自然塾 関東では、毎月第3土曜日を社員ボランティア活動日とし、味噌作りやお茶摘み、夏の雑草取り、収穫作業など、年間を通じてさまざまな農作業に取り組んでいます。

参加者の増加に伴い作業内容も本格化する中で、「初めての方には少し参加しづらい」という声を受け、今年度から初参加者向けの回を新たに設けました。経験や体力にかかわらず、安心してご参加いただける内容としたことで、新たな参加の輪も広がっています。

この欄を読まれている皆さんにも、ぜひ一度自然塾にお越しただけければと思います。ボランティアとして作業に加わることはもちろん、体力的に難しい方は見学だけでも構いません。現地で見ると塾生たちのいきいきとした姿は、きっと心に残るものになるはずです。



ボランティアの皆さんが塾生の掘り残したゴボウをすべて収穫しました

リコー

リーグワン 2025-26、創業者・市村清の故郷・佐賀県でホストゲーム初開催！

2025年12月からNTTジャパンラグビーリーグワン2025-26が開幕。リコーブラックラムズ東京は、NZ代表として89試合出場の経験豊富なTJ・ペレナラ選手がキャプテン、松橋周平選手・池田悠希選手がバイスカプテンにそれぞれ就任し、「Reignite（再び闘志に火をつける）」をスローガンに上位6チームを入りを目指して戦っています。

第3節 三重ホンダヒート戦は、市村清氏の故郷・佐賀県で初となるホストゲームを開催。試合は手に汗握る展開の中、32-28で今シーズン初勝利。リコー山下会長・大山社長をはじめ、リコージャパン佐賀支社の皆さまや関係者の皆さまにもご来場いただき、たくさんの声援をいただきました。

2025年夏にはSO中楠一期選手とCTB池田悠希選手が日本代表デビューし、今後も選手たちの活躍が期待されます。今シーズンもブラックラムズ東京への応援をどうぞよろしくお願いいたします！



第3節の試合後、リコー山下会長、大山社長らと勝利の喜びを分かち合いました

リコークリエイティブサービス

三愛会の皆さまに保険相談 Forms のお知らせ

リコーグループの福利厚生制度保険を取り扱っているライフサポートセンターでは、三愛会の皆さまに保険相談の窓口の一つとして、保険相談 Forms（オンライン受付フォーム）をご用意しております。

お持ちのスマートフォンで右記の二次元バーコードを読み取ってください。ご入力内容は以下となります。

- 所属会社（本籍）※退職者の方は以前在籍されていた会社
- お名前（カタカナ）
- メールアドレス
- お住まい（都道府県）
- RCS 保険相談方法の選択（リアル相談・オンライン相談・メール相談・電話相談）
- 相談や確認したい事項について（任意）
- その他（任意）

※通常は営業日3日以内にメールにてお返事いたします。

※ご希望の相談方法や日時など、最初はメールでのやり取りをさせていただきます。



〈お問い合わせ先〉 ライフサポートセンター 営業推進室 zjp_sales_promotion@jp.ricoh.com

リコークリエイティブサービス

ご存じですか？ リコー三愛グループの皆さまが利用できる「住まいの法人提携制度」

住まいをかう・建てる・売る・リフォームする時

全国の法人提携企業 約100社から割引・優遇が受けられる制度です。

例えば・・・ ●新築マンション（価格5000万円）を購入 ⇒ 1%の割引物件 → 50万円の割引特典

●注文住宅（工事価格3000万円）で建築 ⇒ 3%割引の会社 → 90万円の割引特典

ご注意：提携会社に「初めて」問い合わせをする前に当社発行の「紹介カード」がないと適用されません。

① 住まいを考え始めたら → Web サイト「RNAVI」で検索！ 提携会社を確認 →

② 気になる会社・物件を見つけたら → 「紹介カード」発券申請

〈お問い合わせ先〉

ファシリティマネジメント事業本部 CRE部 担当：田中 電話：080-2004-5712



三愛オブリ

熊本石油のグループ加入

2025年12月2日、三愛オブリグループに熊本石油が加わりました。

熊本石油は1948年10月に創業し、「お客様とのコミュニケーション」を掲げて、熊本県下でLPガスの供給とサービスステーションの運営を中心に事業をおこなっております。

今後は三愛オブリグループの一員として地域への貢献とグループの持続的な成長を支えてまいります。

【熊本石油株式会社の概要】

商号：熊本石油株式会社
代表者：栗林 慶太
設立：1948年10月25日
資本金：10,000,000円
本社所在地：熊本県熊本市南区平田一丁目10番25号
電話番号：096-353-6554（代表）
事業内容：LPガス販売・石油製品販売・住宅設備機器販売・自動車用品販売等

リコーエレメックス

蓄電池製造設備産業の強化を目指す共同事業に参画

リコーエレメックスは2025年12月11日、一般社団法人電池サプライチェーン協議会（BASC）の会員企業9社で構成され、蓄電池製造設備産業の強化を目指す共同事業体「Swiftfab Energy Systems 株式会社（仮称、以下 Swiftfab）」の設立に合意しました。設立は2026年4月を予定しています。

Swiftfab は、経済産業省が策定する蓄電池産業戦略と連動し、建屋・設備・生産装置・システムを設計・開発。蓄電池製造ラインとして統合したソリューションを共同で構築・展開することで、短期間・低コストかつ高品質を高次元で両立できる電池製造拠点の提供実現を目指します。

Swiftfab において、当社は検査工程での様々な検査装置をはじめ、各生産工程の自動化、装置・ユニットの小型化などの役割を担います。

他の参画企業とも連携し、当社の強みである「構想設計力」「エンジニアリング力」「差別化技術」を組み合わせ、高品質、高効率、低コスト、省エネルギーを実現する生産体制の構築を進めていきます。



Welfare すずらん

DX・災害対応に特化した住宅型有料老人ホーム「MayLily（メイリリー）一宮ちあき」オープン

リコーリースのグループ会社で介護事業を営む Welfare すずらんが、2025年9月、愛知県一宮市に住宅型有料老人ホーム「MayLily 一宮ちあき」を新規オープンしました。

「MayLily」の特徴は見守りロボットやVRリハビリ機器などDX設備を充実させ、サービス品質の向上を目指すとともにスタッフの負担軽減を実現したこと、健康とおいしさを追求した食事により上質な生活を提供することにあります。また、本施設固有の特徴として、地元家具ブランドとのタイアップによるアメニティの充実や敷地内農園で自然に触れ合う生活が可能なおこと、全居室を2階とした水害対策型となっていることにあります。

施設の開発で得たノウハウや市場への新たなサービスの提供を通じ、当社グループのマテリアリティの一つである「豊かな暮らしをつくる」を推進してまいります。



「MayLily 一宮ちあき」施設外観

三愛会・創業者市村清顕彰活動 その1

「愛の手募金活動」は開始から50年を迎えました

1975年に始まった「愛の手募金活動」は2025年12月に50年目を迎えました。

11月から12月に実施した“愛の手募金強化期間”活動には、今回もリコー三愛グループ各社の社員の皆さまに多大なるご協力をいただきありがとうございました。

皆さまから寄せられたご厚志は、12月に年末プレゼントとして850万円を遺児、重度の障がいを持つお子さんたち85人(10万円/人)に贈ることができました。重ねて感謝申し上げます。



「愛の手運動」告知 『San-ai』 80号

1975年12月、社員たちによる“この子たちに愛の手を”の呼び掛けをきっかけに、初めての「愛の手募金」が実施されました。さらにさかのぼって、この活動のそもそもの発端は、創業者・市村清の思いからスタートした“市村遺児育英会”にありました。

1961年1月、市村は在職中に亡くなった三愛石油の社員の葬儀に参列した際、まだ幼かった子供たちが悲しみに暮れる姿を目にし、胸を痛めました。そして、一家の大黒柱を失った遺族たちに何か自分にできることは無いかと考え、経済的に少しでも支えられたらと救済の手を差し伸べることを思い立ちました。

市村の決意を受け、三愛会理事会で審議した結果、「市村遺児育英会」が設立されました。当初の遺児育英会は市村のポケットマネーを基金として運営されていましたが(1964年から三愛会会員各社の会費により運営)、この意義ある制度に本当に血を通わせるためにはグループ社員一人ひとりの自発的な参加こそが大切であるという声が高まり、1975年に1回目の愛の手募金活動が行われました。

この時参加した三愛会会員会社は35社5団体。各職場の若手社員による実行委員が中心となり手作りした募金箱で呼び掛けた結果、当初の目標金額200万円の倍以上となる450万円を超える募金が集まったのです。

この年の12月25日、遺族を招いてクリスマスパーティーを開催。サンタに扮した実行委員から子供たちへクリスマスプレゼントが、お母さんたちには愛の手の募金から遺児一人あたり5万円がプレゼントとして手渡されました。パーティーの終わりに、みんなで“きよしこの夜”を歌ったとき、お母さんたちも実行委員たちも感動で涙ぐんでいました。

社員たちの声から始まった愛の手募金活動は、1976年5月、「愛の手委員会」の発足により正式な活動として認められ、毎年年末に行われてきました。

「わたしたちの心をつなぐ愛の手」を合言葉に展開されてきた愛の手募金の活動は、市村の物故社員遺族への温かい思いからスタートし、それを礎として、リコー三愛グループ社員の“人を愛する”心に支えられて、年々広まり、50年の歴史を紡いできました。これからもこの愛の伝統が続いていくことを切に願っています。皆さまのご協力をよろしく願います。



サンタさんからプレゼントをもらう子供たち、クリスマスパーティーの様子(1975.12)



「愛の手運動」の特集記事を掲載 『San-ai』 80号(1976)

三愛会・創業者市村清顕彰活動 その2

市村の遺志により佐賀県に寄贈された茶室「清恵庵」が、国の登録有形文化財に

1973年、市村の遺志により幸恵夫人が佐賀県に寄贈した茶室「清恵庵」が、貴重な建築遺産として国の登録有形文化財に登録されることになりました。

建物の敷地面積は230m²、建築面積70m²で、4畳半の茶室（小間）と7畳半の広間兼水屋、^{よりつき}寄付、台所、トイレで構成されています。

設計は茶室建築の第一人者である堀口捨己氏。この茶室は、現在、佐賀県の施設として茶会や茶道の研修会などに利用されていますが、堀口氏設計の茶室の中で一般の人も利用できるのは全国でここだけとなっています。



三愛会・創業者市村清顕彰活動 その3

エフエム佐賀・特別企画

リコー三愛グループ三愛会 presents 「5分でわかる！市村清の経済学」を放送中！

エフエム佐賀では、1月から新番組「5分でわかる！市村清の経済学」のラジオドラマを放送しています。

今回は、「経済」という切り口で、佐賀大学・山本長次教授特別監修のもと、新しい市村清に迫ります。

■放送期間 2026年1月6日（火）～3月31日（火）まで

■放送日時 毎週火曜日 15:55～16:00（計13回）

再放送は毎週日曜日 10:55～11:00

インターネット・スマホアプリ「radiko」でも聴くことができます。

放送は、三愛会ホームページでも定期的に公開していますので、こちらもお聴きください。

<https://www.san-ai-kai.jp/ichimura/gallery.html>



創業者墓参

三愛会では、リコー三愛グループ創業者・市村清の墓参を東京都港区元麻布の賢崇寺にて年4回実施しています。昨年9月18日に秋の墓参を、祥月命日の墓参を12月16日に行いました。

さらに2026年の仕事始めとなる1月5日に、リコージャパン笠井社長はじめリコージャパンの幹部社員の皆さんが、6日にはリコーの山下会長、大山社長が新年の墓参を行いました。



祥月命日の墓参



リコージャパン笠井社長（左から4人目）はじめ役員一同



リコー山下会長（右）と大山社長

支部の活動報告

北海道支部

札幌地区ビアパーティーを開催

2025年9月19日、毎年恒例の札幌地区ビアパーティーが開催され、171人が参加。

ジンギスカンやビールの食べ飲み放題でお腹を満たし、風船早割り競争などの余興で会場は大いに盛り上がりました。



余興の様子



会場の様子

東京支部

ビアパーティー開催

2025年9月5日、XEX日本橋においてビアパーティーが開催され、7社76人の方が参加。

おいしい料理に楽しいゲーム大会などで大いに盛り上がり、終始賑やかな会となりました。



東京支部

2026年度幹部新年会開催

1月7日、明治記念館において14社97人の役員幹部の方々が参加して新年を祝いました。



挨拶する東京支部長の
リコージャパン笠井社長



会場の様子



愛の手募金を実施

神奈川・東静岡支部

2025年度総会・見学会・懇親会を開催

2025年9月19日、26人の幹部の皆さんが出席して2025年度総会とSBSネクサードの物流センター厚木の見学会を開催、その後の懇親会で積極的に交流を図り親睦を深めました。



宮尾支部長（前列左から3人目）をはじめ神奈川・東静岡支部の幹部社員の皆さま

中国支部

秋の交流会を開催

2025年11月28日～29日、幹部社員9人が参加してリコーITソリューションズ鳥取オフィスとリコーPFUコンピューティング鳥取工場の見学会などを行う交流会を開催。

近況などを語り合い親睦が深まるイベントとなりました。



石川支部長（前列左から2人目）をはじめ中国支部の幹部社員の皆さま

支部の活動報告

九州支部

市村記念公園（生家跡）の清掃活動を実施

2025年12月5日、九州支部の会員会社の皆さん30人が集い、市村記念公園内の清掃を行いました。落ち葉を拾い集め木々の剪定をするなど、公園の隅々まできれいにしました。



清掃終了後に全員で記念撮影

近畿支部

2026年度総会ならびに見学会を開催

1月19日、10人の幹部の皆さんが出席して2026年度総会を開催。第2部としてSBS三愛ロジスティクスの物流センターを見学したのち、懇親会で親睦を深めました。



明支部長（前列右から2人目）はじめ近畿支部の幹部社員の皆さま

「三愛会社友会」（リコー三愛グループOB会）入会のご案内

三愛会社友会はリコー三愛グループの会員会社を定年退職または退職された方が退職後も相互に親睦を深めていこうと1975年に発足したOB・OG会です。

毎年4月の「総会・懇親会」、7月の「夏季ビアパーティー」をはじめとして共通の趣味を持つ者同士の自主的な活動（サークル活動）も活発に行われています。

入会の特典として、長寿のお祝い金（1万円）を満年齢で喜寿と米寿を迎えられたお誕生月にお送りします。また、叙勲・授賞のお祝い金（1万円）や万が一のときに弔慰金をお届けいたします。

人生100年時代、実り多き人生の後半戦を三愛会社友会に参加して集い楽しんでみてはいかがでしょうか。

入会は退職後、いつでも可能です。ぜひ、この機会にご検討ください。皆さまのご参加をお待ちしています。

- 入会資格：三愛会会員会社の定年退職者、または勤続20年以上、もしくは会員2名以上の推薦
- 入会金：3,000円
- 年会費：3,000円（7月以降入会は、当年度会費1,500円）
- 入会方法：各社人事総務ご担当者 または
三愛会社友会事務局(070-4418-0126)へお問い合わせください。

慶弔について

- 長寿祝い（喜寿／米寿）：それぞれ満年齢のお誕生月に1万円を贈呈
- 叙勲・授賞のお祝い：1万円を贈呈（ご本人より申請ください）
- 会員弔慰：弔慰金1万円

社友会の10サークル

- 散策 ● ハイキング ● ゴルフ ● テニス ● スキー ● 健康麻雀 ● 囲碁・将棋 ● 尺八 ● カメラ ● スケッチ画



スケッチ画サークル
三水会と一心会 合同展（2025.6）



ゴルフサークル
リコー・三愛ゴルフ秋季大会（2025.10）



散策サークル
等々力不動尊の展望台（2025.11）

「愛の手募金」からのご報告とお知らせ

2025年11月～12月に実施された「愛の手募金強化期間」では、リコー三愛グループ各社の社員の皆さまのご協力により9,317,995円（2月10日現在）の募金が集まりました。ご協力くださった社員の皆さまお一人おひとりに感謝してご報告します。



お礼のお手紙

愛の手委員会では、グループ社員の皆さまからいただいた浄財を、毎年12月に「年末プレゼント」、3月に「入進学祝金」として対象のお子さんに贈呈しています。

愛の手の対象となる条件など、詳細については愛の手委員会事務局へお問い合わせください。

【問い合わせ先】リコー三愛グループ愛の手委員会 事務局
TEL：050-3534-3401（三愛会代表）

三愛会創立 80 周年記念

『特製 2026 卓上カレンダー』作成

三愛会では、創立 80 周年にあたり特製卓上カレンダーを作成いたしました。

市村のふるさと佐賀県内のゆかりの地をはじめ、市村が創業した会社や設立に関わった会社のエピソードなどの情報を掲載、市村清と三愛精神、さらにリコー三愛グループを知っていただくツールとしてもご活用いただきたいと思います。

なお、今回、読者アンケートにご回答くださった方の中から 30 名様に特製カレンダーをプレゼントいたします。



三愛会会誌・Web アンケートの実施 より良い紙面づくりにご協力ください

三愛会会員会社の皆さまに、本誌の満足度と今後について、Web アンケート調査を実施します。

※回答は、下記の共通 URL、または QR コードから。

<https://jp.surveymonkey.com/r/SAN-AI176>

アンケート 実施期間 2月27日（金）～ 4月30日（木）

*後日、三愛会がランダムに抽出した三愛会会員各社社員の方々にも本アンケートのお願いをメールで送らせていただく予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。



三愛会カレンダー〈2026年3月～7月〉

※ 2026年1月20日現在

三愛会全体

- 3月 春彼岸 墓参
リコー三愛グループ案内（2026）発行
- 5月 愛の手委員会
市村清ゆかりの地を巡る 東京ツアー（予定）
- 7月 盂蘭盆会 墓参
『三愛会会誌』177号発行

支部

- 4月 東京支部総会（予定）

読者の声

『三愛会会誌 175号』へのWebアンケートに多くの方からご意見・ご感想をいただきました。ご協力ありがとうございました。アンケートの中から一部をご紹介します。

●創業者・市村清物語『市村清の訓え』

*とてもためになるものばかりで、今の時代このようなことを言ってくれる人が少なくなっていると思う。（リコー）

*市村清の訓えは役に立つ、若い社員にも読んでもらいたい。（リコーリース）

*市村清物語を読んでいつも感動しています。素晴らしい人物だと思います。（リコー）

●特集：市村清ゆかりの地を巡る ツアーレポート

*このような企画を実施していたことを知りませんでした。佐賀には行ったことが無いですがとても興味がわきました。（リコー）

*参加者の皆さんがとても楽しそうで、うらやましいです。（リコージャパン）

編集後記

三愛会は今年で80歳。合同入社式や合同運動会、物故者合同慰霊法要など、今では役目を終えた活動もありますが、社友会（OB会）や愛の手募金活動、三愛会・支部活動など、連綿と続いているものがたくさんあります。

私が三愛会に入社した1992年の会長は3代目・三善信一さん（元リコー会長）でした。三善会長は創業者に気に入られ、懇願されてリコーの取締役役に就任しました。偉大で雲の上の人とと思っていましたが、お会いすると「おう！」と片手を上げて声を掛けてくださる気さくさがとてもうれしかったのを思い出します。

私は創業者にお会いしたことはありませんが、創業者と三善会長のお二人には似た雰囲気を感じます。ですから、市村時代の社員の皆さんの市村像は、私の三善像に近いかもしれない、と勝手に想像しています。（E子）

『三愛会会誌』 編集委員

- ほし 星 や 谷 のり 子 (リコー)
- い わ 田 とし 敏 ゆき 幸 (リコーエレメックス)
- あ ず ま た ゆ み 見 (三愛オプリー)
- あ ず ま た ゆ み 見 (三愛オプリー)
- くら 田 た 元 こ 子 (リコーリース)
- た け 竹 だ 田 ち 千 ひろ 尋 (リコークリエイティブサービス)

会社(団体)名	所在地 ※ビル名は省略	電話番号	事業内容
三愛会	東京都大田区中馬込1-3-6	050-3534-3401	会員会社・社員の福利厚生・親睦・文化活動等
(株)リコー	東京都大田区中馬込1-3-6	03-3777-8111	デジタルサービス、デジタルプロダクト、グラフィックコミュニケーションズ、インダストリアルソリューションズ、及びその他において、開発、生産、販売、サービスの提供
リコージャパン(株)	東京都港区芝3-8-2	050-3534-0800	さまざまな業種におけるお客様の経営課題の解決を支援する各種ソリューションの提供
迫りコー(株)	宮城県登米市迫町佐沼字北散田86	0220-22-4431	OA機器製造、精密金属部品の工法開発から製造
リコーインダストリー(株)	神奈川県厚木市下荻野1005	046-243-1210	事務機器、光学機器、印刷機器、機械装置等とこれらの消耗品の製造ならびに販売など
エトリア(株)	神奈川県横浜市西区高島1-2-5	050-3814-7000	事務機器・産業機器・光学機器及びその周辺機器・消耗品等の開発・生産・販売等
エトリアマニュファクチャリングジャパン(株)	静岡県沼津市西沢田146-1	050-3814-5442	複合機・プリンター、周辺機及びその消耗品等の生産・再生に関わる事業
リコークリエイティブサービス(株)	東京都大田区中馬込1-3-6	03-3777-2685	事業所運営事業、厚生支援事業、ビジネス支援事業など
リコー PFUコンピューティング(株)	神奈川県海老名市泉2-7-1	050-3817-3333	組込みコンピューティング事業、エッジデバイス事業、EMS事業、フォント事業など
リコー ITソリューションズ(株)	神奈川県横浜市都筑区新栄町16-1	050-3817-3900	ソリューションサービス事業、リコーグループ社内ITシステム事業
リコーイメージング(株)	神奈川県横浜市都筑区新栄町16-1		カメラ、その他光学機器の製造・販売及びサービスの提供
リコーエスポアール(株)	神奈川県厚木市下荻野1005	046-243-1590	アフターサービス用品の包装、梱包業務、部品の組み立て、リサイクル業務など
リコーデジタルペインティング(株)	東京都町田市小山町800-5	042-751-6110	プリンター、インク/塗料の開発・製造・販売
リコーテクノリサーチ(株)	神奈川県海老名市泉2-7-1	046-292-5372	特許調査・外国出願(米欧中韓の翻訳)・特許管理
リコーエレメックス(株)	愛知県岡崎市井田町3-69	0564-23-5111	精密加工部品、産業機器、OA機器関連等の製造・販売
リコーエレメックスエーティー(株)	岐阜県恵那市長島町中野1218-2	0573-25-8524	精密加工部品等の製造・販売
リコーリース(株)	東京都港区東新橋1-5-2	03-6204-0700	リース&ファイナンス事業、サービス事業、インベストメント事業
テクノレント(株)	東京都港区東新橋1-5-2	03-6863-2700	各種計測器、IT機器のレンタル、計測・機器点検等の受託技術サービス、各種機器の販売など
三愛オブリ(株)	東京都千代田区大手町2-3-2	03-6880-3100	石油製品およびLPガス等の販売、航空燃料取扱業
キグナス石油(株)	東京都千代田区大手町2-3-2	03-5204-1600	石油類、石油化学製品の売買
佐賀ガス(株)	佐賀県佐賀市兵庫町大字西洲1996	0952-30-6161	都市ガス供給事業、ガス器具等の小売販売
三愛リテールサービス(株)	東京都品川区東大井5-22-5	03-6810-3900	石油製品等の販売
三愛オブリガス東日本(株)	東京都品川区東大井5-22-5	03-6864-1833	LPガス・ガス器具等卸売・小売販売など
三愛オブリテック(株)	東京都品川区東大井5-22-5	03-6864-1850	CT事業、建設事業
三愛オブリガス西日本(株)	福岡県福岡市博多区冷泉町5-32	092-291-1731	LPガス・ガス器具等卸売・小売販売など
三愛オブリガスサービス中国(株)	岡山県倉敷市中庄2230-7	086-461-0164	LPガスの配送・充填
三愛オブリガス三神(株)	佐賀県神埼市神埼町本堀3003-6	0952-53-1221	LPガス・ガス器具等の小売販売、建設業
三愛オブリガスサービス九州(株)	福岡県福岡市博多区冷泉町5-32	092-291-1750	LPガスの配送・充填
三愛オブリカスタマーサービス(株)	高知県高知市本町4-2-52	088-888-7200	石油関連製品等の受発注業
(株)トスプロ	佐賀県鳥栖市儀徳町2927-1	0942-83-3059	LPガス・ガス器具等の小売販売
(株)サガテレビ	佐賀県佐賀市内1-6-10	0952-23-9111	放送法に基づく放送事業、メディア事業、その他の放送関連事業
(株)西銀座デパート	東京都中央区銀座4-1先	03-3566-4008	不動産賃貸業及び商業施設運営管理
(株)エフエム佐賀	佐賀県佐賀市本庄町大字袋286-5	0952-25-7790	放送法に基づく超短波放送事業、その他の放送関連事業
瀬の本高原リゾート(株)	熊本県阿蘇郡南小国町満願寺5621-7	0967-44-0513	観光ホテル、ドライブイン等の運営
日清紡マイクロデバイス(株)	東京都中央区日本橋横山町3番10号	03-5642-8222	電子デバイス製品・マイクロ波製品の設計および製造・販売
SBSネクサード(株)	東京都新宿区西新宿8-17-1	03-6772-8202	国内物流、国際物流に関するトータルソリューション事業
SBS三愛ロジスティクス(株)	東京都新宿区西新宿8-17-1	03-6772-8203	地域における物流トータルソリューション事業
(株)オプトル	神奈川県横浜市都筑区新栄町16-1	045-286-5112	ADAS向け車載カメラやHUD部品、プロジェクターレンズ、光学デバイスの企画・開発・製造・販売とそれらを使用したサービスの提供
佐屋醤油(株)	佐賀県佐賀市唐人1-1-16	0952-23-4624	醤油製造業、駐車場業、保険代理業
リコー三愛グループ健康保険組合	東京都品川区南品川116-11-6	03-3740-4881	加入会社社員・家族の医療給付と保険事業
公益財団法人 市村清新技術財団	東京都大田区北馬込1-26-10	03-3775-2021	新技術開発助成、市村賞贈呈、植物研究助成、少女少女創造性育成、地球環境研究助成、市村賞受賞記念フォーラム
リコーグループ福祉会	東京都大田区中馬込1-3-6	03-3777-4278	リコーグループ各社への共済事業

RICOH
imagine. change.

“はたらく”に、
喜びを。



私たちのサービスが実現するのは、好きな時に、好きな場所で、自由にはたらく世界。
はたらく人、場所、ワークフローが自在につながり、人間らしい想像力が発揮される未来。
そして、“はたらく”の変革に実現する、持続可能な社会。
リコーは、あるべき未来を思い描き、今をかえていきます。

はたらく喜びを、生きる喜びへ、つないでいくために。

<https://jp.ricoh.com>

株式会社リコー 〒143-8555 東京都大田区中馬込1-3-6